

マジックについて

国土交通省港湾局 海岸・防災課 災害査定官
西田 光昭

皆さん、こんばんは。本省海岸・防災課にいます災害査定官の西田とい
います。諸先輩方を目の前にして喋るのも苦しいくらいの心を察してくだ
さい。よろしくをお願いします。ウォーターフロント協会のサロンというこ
とでお呼び頂きまして本当にありがとうございました。私、年は53歳でご
ざいます。多分皆さんの10歳くらい下ですかね。失礼でしたら申し訳ござ
いませぬ。今日、話す内容はですね、私目線で話させて頂きますので、ち
よっと分からへんという所もあるかもしれませぬが、そこはご勘弁願いま
す。今、聞いてお分かりになるように私は強烈的な関西弁なので言葉も分か
らへんというところもあるかもしれませぬが、その時は手をあげて頂いて、
再度、標準語で喋り直したいとは思いますが、御聞き苦しい点はご容赦願
います。

いきなり高いハードルを港湾新聞の大倉様から頂きまして、「港湾行政
とマジック」ですか。繋がりがあるのか私にはよく分かりませぬが。
実は私は53歳と言いましたが、マジックを始めたのは40歳の時なんです。
40歳まではマジック、手品、奇術は縁もゆかりもありませんでした。Mr.
マリックさんが何をしようが、ユリゲラーがスプーンを曲げようが、どう
でもええというような、そんなに気にもしていなかったのですが、実は40
歳の時の新年会で、幹事と言うか担当をしていたんですが、その時に何か
面白いことはないかなということで、実はマギー司郎さんと呼ぼうと思っ
たんですね。でも宴会総予算を軽く超えてしまうギャラで断念をしまして、
おまえがやれ、ということで私がやる羽目になって、それ以来13年マジッ
クをやっているような恰好です。あまり港湾経済活動と関係の無い話で申
し訳ないですね。

皆さん、お手元に1枚紙が行っていると思いますが、実は今日、12月3
日は奇術の日ということです。本当に偶然365分の1の確率でこんな日に
マジックの講義が出来るということは非常にありがたいこととございます。
これは日本奇術協会という日本では一番大きなマジックの団体なんですが、
そこが1990年に作りました奇術の日。奇術をする時というのは、ワン、ツ
ー、スリー、とやっていてほしいですね。いまではほとんどそれを
言いませんが。それから12月3日ということですが、それでは1月23日
ではないのかという質問がありましたがそれは分かりませぬ。他にはカレ
ンダーの日とか全国タクシーの日とかいろいろな記念日があります。けっ

こう 12 月 3 日っていろいろあるようです。ちなみに日本奇術協会というのは会長さんが渚晴彦というんですが、皆さんご存知ないですが日本で有数のマジシャンでございます。名誉会長には松旭斎すみれさんといって昔、水芸をやられていた方です。もちろんあとで話をしますが、マギー司郎さんや皆さんこの協会に入られています。

マジックとはということでインターネットでマジックを検索するとウィキペディアというサイトが引っかかってきます。マジックとは何ぞやということが書いてあります。マジックにはマジックインキとかいろいろ 3,420 万件引っかかってきます。その中でマジック奇術という純粋なものは 30 万件ぐらい、100 分の 1 です。ウィキペディアによりますと、人間の錯覚や思い込みを利用し、実際には合理的な原理を用いてあたかも実現不可能なことが起きているかのように見せかける芸能というふうに記載されています。同類は呪術、魔術と書かれています。魔法というのは魔法使いサリーちゃんとか、箒に乗って出て来るとかは常人に不可能な結果を実現する力ということになっているようですね。呪術というのは祈祷ですね。祈祷師、占い師、呪文、お祓い、たとえば、「雨降れ、雨降れ」と祈って降るわけではないんですが、雨乞いをやると雨が降るとか米が取れるとか豊作になるとかそういうものですね。おまじないというのもそれに入ると思います。魔術というのは白魔術というのと黒魔術というのがありまして、白魔術というのは好ましい結果をもたらす魔術でございます。黒魔術というのは他人に危害を加える魔術です。昨今、糖尿病の 7 歳の子供にインシュリンを投与せずにはハンバーグばかり食わせて死なせたということがありましたが、これは祈祷で治療をやってしまうという非常に理にかなわない黒魔術系のひどいことだと思っています。

マジックの歴史というのが次のハートのマークのところにありますが、マジックの歴史にはいろいろ諸説ありまして、実は 4,000 年ぐらい前の古代エジプトの壁画にカップ&ボールというマジックをしている図があるそうです。実際はどのようなことをやっていたかは分からないんですが、それが起源ではないかと言われていています。奇術というのは奇跡と魔術の合成したものだという説もあります。昔は集団でするときにリーダーというのに不思議な力が必要だった時代があるそうです。そういう時には人ができないこと、民衆ができないことをリーダーがちょっとやって見せてその関心を引いて権力を得たということです。日本の中では奈良時代に仏教とともに中国大陸から伝来をしてきたということですが、それ以前については記述がございません。狂言とかと同じ源流ではないかと言われていますが大衆芸能でございます。大道芸能として発達して行きまして、芸として完成していったと言われております。室町時代以降、伴天連、キリシタンが禁

止になっていくんですが、その方たちが使っていた妖術ではないかという風なことで非難されていて一時、奇術が禁止になった時代もあるようです。

江戸時代に入りまして日本の奇術というのが出てまいりまして、歌舞伎、演芸とかといっしょに大衆の前でマジシャン、奇術師が演じて皆さんの前で喜んでいただくということをやっているようです。さきほどの松旭齋系の水芸、こちらから水がびゅーっと出たかと思うと反対からびゅーっと出るというもの、それから胡蝶の舞と言って下から仰ぐと蝶々が飛んでいくとか。これにももちろんタネがあります。これらは当時は手品と言わずに手妻と呼んでいたようです。

明治に入りまして、西洋の方から西洋奇術というものが入ってきます。これはほぼステージマジックが主流でございまして、鳩を出したり人間を斬ってみたりつついてみたりという、人前で大きなことをしだしたのが明治時代でございます。戦前に入りますと、今度は欧米から手品が入ってきます。ここではトランプ、日本では花札が主流でしたが欧米からトランプが入ってきて、トランプを使ったマジックが完成をしていくようになります。大勢のまえではなくて4～5人の前でやるのが戦前からの欧米奇術でございます。

1970年代にユリ・ゲラーが登場してテレビで一大ブームを巻き起こしました。スプーン曲げですね。それから時計の念動というものです。止まった時計をテレビの前に持ってこさせて握っていれば時計が動くというものです。これもタネがあるんですよ。止りかけた時計を手の中に握っていると熱で少し動かせるんですね。動きます。やってみてください。スプーン曲げも実はタネがあります。以前、「ほこたて」という番組でユリゲラーさんと日本の相当すごい曲がらないスプーンを作る会社と対決して、スプーンの会社が勝った。ユリゲラーさんが負けた。そのときのスプーンの厚みが5cmぐらいなんですね。これはスプーンではないですね。スプーンとは言えません。そんなもの曲がるわけがありません。ユリゲラーさんが何分かそれを握っていたらしいですが、曲がるわけがないといって諦めたそうです。マジックというのはそんなものです。それから1990年代になるとこんどはMr.マリックさんがハンドパワーといいながら超魔術というのをやられました。これもテレビで普及していったということでございます。2000年代に入るとマジックがそこら中でやられています。トランプマンとかゼロ、ふじいあきら。口からダーッとトランプを出すマジックですね。2010年代ぐらいになってくるとカードマジックが主流になりまして、本当にアメリカで修行されたマジシャンの前田知洋さんなんかはどんどんテレビに出てきて、テレビを付けたとどこかでやっているというようになっております。

基本的には大きな波があつて、良い時代と悪い時代というのがあつて、良い時代はマリックさんもすごくいいんですが、悪い時代になると本当にテレビも呼んでくれないし「くりまたすみ」というような変な名前をつけて亀飛ばしとかそんなへんなことをしだします。

つぎにマジックの分類でございます。大きく 3 つに分けると大人数でやるマジック、中人数でやるマジック、少人数でやるマジック。大人数に人数の制限はございませぬ。100 人 200 人 300 人。3,000 人でも構いませぬ。これをステージマジックといいます。大きな舞台の上で行う大規模なマジック。その中でもイリュージョンという仕掛けを使用しまして全世界を渡り歩いているマジシャンもいます。中人数ですが比較的近距离で 20~30 人のパーティなどで行うものをサロンマジックと言っています。少人数になりますとクロースアップマジックといいまして、3~4 人で行います。1 人でも、大好きなご婦人に見て頂くというような場合もあります。少人数の観客を前にテーブルを使いながらやる。これとは対照的に外でやるマジック。セロさんがやっていましたね。壁からハンバーガーを取り出したり、水槽の中に手を突っ込んでその中の魚を取り出すというマジックもされていたことがございます。こういうのをストリートマジックと言います。これは路上で演じるマジックです。それからテーブルホッピングですね。特にパーティなんかに行くとテーブルが 8 つとか 10 とかあるでしょう、大きい所でやるのも全員見えるのでいいですが、テーブルを回りながらそれぞれのテーブルでテーブルマジックをやっていくというのをテーブルホッピングと言います。これが大きくマジックの 3 つの分類ですね。

それからまた違う分類になりますが、大きく 2 つです。仕掛けがあるか、ないかでのマジックの分類があります。タネも仕掛けもございませぬ。と言いますが。そういう場合は仕掛けがあります。あるからああいうことを言うんです。仕掛けがなければそんなことは言いません。普通にそこらへんで売っているトランプを持ってきてですねそのままマジックをするというのは、これをスライハンドと言います。これは手練の技術で不思議さを演出していくのでタネも仕掛けもないです。それから、もう 1 つは仕掛けがあるやつですね。わたしの今日やるのもほとんど仕掛けがあるやつです。これは仕掛けが施された道具で行うもので、ギミックと言います。そのギミックの中で、手順通り行えば自動的にうまくいくマジックをセルフワーキングと言います。トランプに仕掛けがあるやつはその通りにしないとその現象が出てきませぬ。いきなりパッと見せても不思議かどうかも分からない。不思議さが伝わりませぬ。

その他の分類にマジックの中でもちょっと異質なものがございます。メンタルマジックというものがあります。これはある種の心理学でございま

して、人の心を読んで正答へと導くというものです。最近では DAIGO さんという方がメンタルマジックをずっとやっておられます。このメンタルマジックもものすごく理に適っています。マジシャンの方でもこれが得意な方、ステージが得意な方、いろいろおられます。私はこれはできません。次は科学マジックといひまして科学の原則、原理を応用して、それをマジックらしく見せるというものです。一番有名な人はでんじろうさんという方で NHK の E テレなどでやっています。あの方のマジックは科学の力を応用しています。そういうのが科学マジックです。コメディマジック、これはお笑いだけでやるというもので、マギー司郎さん、ナポレオンズさん、昔でいいますとゼンジー北京さんが有名です。演技の中に笑いを取り入れるというやり方です。その他のマジックの中には催眠術とかもあるんですが、これはマジックでもなんでもなくて、心理戦で相手を落とすしていくというものなんですが、これがひどくなっていくと宗教に利用されたりとか変なカルトに走ったりとかになります。そういうふうになると、マジックでもなんでもなくなると思っています。

マジックの現象ということで 8 個ぐらい書いています。実際はもっとこれよりあります。移動。出現、なにもなかったのにあらわれてくる。喪失、あったものがなくなってしまう。変化、色が変わってしまったり、トランプの絵柄が別のもに変わってしまったり。復元、復活、壊されたものがもとに戻る。貫通、昔よくやっていた剣を体に突き刺す。そのまま突き刺すとたいてい死んでしまいますから、必ず箱に入ってもらって突き刺しますね。箱がなかったらただの殺人です。これはしたらいけません。浮遊、念動。美女が宙に浮かぶんですが、これもタネがあります。手を触れずにものを動かす。動け動けという先ほどのユリゲラーさんの腕時計のように動くというものです。透視、予言となるとメンタルが入ってきます。箱の中に何が入っている。最初から知っているだけなんです。そうでないと分からないです。ほぼタネ明かしになっていますが、予知、予言 2 千何年にどうだこうだというのはマジックにはないです。あれは預言者ですかね。消滅するとかいつまで地球はありますかね。何年もあとに何か起こるとかいうのはマジックではないと思いますね。予言の中に予知というのがありますね。これは特にアメリカ辺りでは犯罪の捜査に使われていまして本当に現場に行つてどういうことがあったと言う、そういうことに秀でた方いるんでしょうね。テレビでやっているのでも私もよく分かりませんが、目の前でやってほしいですね。降霊ですね、霊を呼び出す。「私がおばあちゃんだよ〜。」とか言うやつですね。僕もやってみたいです。それで儲かるならいいなと思いますよ。まあ、そういうこともマジックの一種ではないと思います。

ハワード・サーストンの三原則というのがあります。ハワード・サーストンというのは昔のマジシャンなんですけど、これはマジシャン側からの演じるにあたっての注意点ということです。まず、披露する前に現象を説明しない。「赤色に変わりますよ。」と言わない。これを言うと、赤色に変わると思っただけで見るから変わっても不思議さがない。そこで黄色に変わると「オー！」ということになるんですが、それを利用しているマジシャンもいます。その次に、繰り返してはいけません。同じマジックを2回、3回やりますと、これも不思議さが半減します。ただ、このごろは繰り返し見せるマジックが出てきています。それは、2～3種類違う答えを用意しています。それを見せて、「うわあー、さっきと違う」ということで驚きを取る場合もあるようですね。三つ目がタネ明かしをしない。終わった後で、「実はこうしているんですよ」というように、裏から見せるようなことをしない。それをやると、これも不思議さがなくなってしまいます。これは演じるにあたっての注意点なんですけど、見るにあたっての注意点ということで、皆さんに確認をとっておくんですが、現象を見る前に、現象を先に言わない。「赤に変わるやろ。」とか言わない。繰り返してはならないという点から言うと「もう一回やれ。」ということも言わない。これを言われるとこちらもしんどいです。タネ明かしをしないという点では「そのマジックを持つと。」とか「ワシにもできる。」とか言われるとこちらは立場がございません。こういうことに気を付けてマジックを見ていただけたらなと思います。

最後に著名なマジシャンということで、明治時代の松旭齋天一という方、福井の出身らしいです。日本近代奇術の祖と言われています。明治45年に亡くなられております。それ以来、松旭齋流というのは日本のマジックの主流でございます。さきほどもいいましたが、松旭齋すみれさんという方は今でもやっておられます。皆さん、ご存知かと思いますが、引田天功さん、初代の引田天功さんは神奈川出身で本名は引田功さんといいました。松旭齋天洋さんの弟子でした。箱を海に沈めて大脱出なんてよくやっていました。それで亡くなったのではないかという噂がありましたが、病死だったそうです。ただ、前の日まで元気でやっていたと聞いております。この方の一番弟子が2代目引田天功、プリンセス天功さんです。歳がわかりません。本人曰く、アメリカでは23歳ということになっているそうです。私より年上であることは確実ですが、本人は23歳とっております。ゼンジー北京さんはゼンジー中村さんの弟子で広島の方なんですけど、しゃべるのが苦手で日本語がうまくしゃべれないということで、ちょっとつまりながら中国語っぽくやったらうけて、ゼンジー北京流のマジックが定着したと言われております。それからみなさん御存知のマギー司郎さんです。こ

の方は茨城の出身で強烈な茨城弁です。おしゃべりマジックの元祖ではないかと言われております。この方もすでに 69 歳なんですね。皆さん本当に年を取っておられます。でも、日々お元気です。Mr. マリックさん。岐阜の出身で本名は松尾昭さんといいます。超魔術として本当に一世を風靡したマジシャンでございます。この方が 66 歳なんですね。みなさんシルバー組に入っています。若い方ではいろいろな人がいます。今本当にメジャーな方というのはこれくらいかなと思います。

葛飾北斎が北斎漫画というのを描いておりますが、資料はその 1 部です。ちょっと見にくいんですが、右上のは吹き馬といって口の中から馬が出て来る。そんなわけではないですが、その下がよくある刀を呑むやつです。今頃は風船を呑むというのがあります。これは危ないので私はしません。これは手の中から波を出しています。水芸ですね。左にいくといろいろあります。蜂を吹いて出すとか、そういうのが江戸時代のマジックの主流だったようです。こういう文献が残っております。

最後に、マジックとは、私自身考えるんですが、笑いと驚きによる幸福の追求ではないかと思います。誰かが苦しんだりとかという話ではなくて、みんながうれしくなる、みんなが楽しくなるというところがマジックではないかなと思います。だましたり、人に危害を加えたりそういうことになってくると目的からはずれていきます。あと 1 ついつもいわれるんですが、「鳩出して」とか言われますが持っていないから無理です。今日も無理です。1,000 円を 1 万円にしてとか言われるんですよ。今日無理です。給料日が済んでからにしてください。逆ならできますが。1 万円札もろたら 1,000 円札にしますよ。いまでもできますよ。無理なことはできません。それが奇術、マジックでございます。そういう意味でみんなが笑顔になるマジックをやっつけていかなければいけないと常々思っているわけでございます。港湾経済活動とは一つも繋がりませんでした。が、（これは記事にならないということでもよろしいんでしょうか）ご清聴ありがとうございました。

◆◆◆第 83 回ウォーターフロント研究サロン◆◆◆

<会場の様子>



<資料>

◆ 今日は何の日？（12月3日）

奇術の日 … 奇術を行うときの掛け声「ワン、ツー、スリー」から（1990年～）

♣ マジック（奇術）とは（wikipedia）

人間の錯覚や思い込みを利用し、実際には合理的な原理を用いて、あたかも「実現不可能なこと」が起きているかのように見せかける芸能。魔法、呪術、魔術
広義のマジック…商品のマジックインキ、団体名、人名、映画や小説のタイトル・作品名、マジックNo

♡ マジックの歴史

4,000年以上前、古代エジプトの壁画に「カップとボール」…マジックの起源か

「奇跡」+「魔術」=「奇術」の説

古代の集団においてリーダーには不思議な力が必要 民衆と違う力で権力を得た

日本では奈良時代に仏教とともに伝来 狂言や能などと同じ源流

大道芸として発展し「呪術・幻術」と呼ばれ芸として完成していた

室町時代以降、バテレン・キリシタンの妖術と非難され一時禁止に

江戸時代～手妻（日本古来の奇術、水芸、胡蝶の舞い等）座敷等で披露

明治時代～西洋奇術（ステージマジックが主流 鳩出し、イリュージョン）

戦前～欧米奇術（トランプマジックやクローズアップマジック）

1970年代 … 超能力ブーム（ユリゲラーのスプーン曲げ、時計の念動）

1990年代 … 超魔術ブーム（Mr.マリック「ハンドパワーです。きてます」）

2000年代 … クローズアップマジックブーム

（トランプマン、セロ、ふじいあきら）

2010年代 … カードマジックブーム（前田知洋）

◇ マジックの分類

大人数 … ステージマジック … 舞台上で行う大規模なマジック

イリュージョン … 仕掛けを使用した特に大掛かりなマジック

中人数 … サロンマジック … 比較的近距離で行うパーティー等でのマジック

少人数 … クローズアップマジック

… 少人数の観客を前にテーブル等で行うマジック

ストリートマジック … 路上で演じるマジック

テーブルホッピング … テーブルを回りながら演じるマジック

スライハンド … 仕掛けがなく手練の技術で不思議さを演出

ギミック … 仕掛けが施された道具を用いて行うもの

セルフワーキング … 手順通り行えば自動的にうまくいくマジック、
カードマジック等

◆ その他のマジック分類

メンタルマジック … ある種の心理学 人の心を読み操り正答へと導く 読心術

科学マジック … 科学の法則・原理を応用したマジック (でんじろう)

コメディマジック … 演技の中に笑いを取り入れたもの

(ナポレオンズ、マギー一門)

♣ マジックの現象

移動 … ある場所にあったものが別の場所に移動する

出現 … なかったところからものが出てくる

消失 … あったものが消えてなくなる

変化 … 別の色に変わる トランプの数字が違う数字に変わる

復元・復活 … 壊したり破ったりしたものが元に戻る

貫通 … 体を剣が突き抜ける コインにペンが貫通する

浮遊、念動 … 美女が宙に浮かぶ 手を触れずものを動かす

透視、予言 … 箱等の中身を透視する 未来を予言する

♡ ハワード・サーストンの三原則

・披露する前に現象を説明しない … 赤色に変わりますよ～ (驚きの半減)

・繰り返してはいけない … 近年は繰り返し行えるマジックも登場

・種明かしをしない … タネを知ると面白くなります

◇ 著名なマジシャン

松旭斎天一 (福井出身：～1912.6.14：日
本近代奇術の祖)

引田天功 (神奈川出身：～1979.12.31：

引田功)、

ゼンジー北京 (広島出身：渡辺重信)

マギー司郎 (茨城出身：野澤司郎)

Mr.マリック (岐阜出身：松尾昭)



葛飾北斎画「北斎漫画」